

雨宿りの箱庭

—PTSD予防とスサノヲの涙—

森下温美

(関西医療学園)

1. 問題と目的

本報告は、筆者が『雨宿りの箱庭』と名づけているDV (domestic violence) シェルターでの箱庭の第10報である。古事記は、日本文化の源流であり、スサノヲの個性化の過程であるが、聖なる場所で発生したDVやその連鎖により、急性ストレス傷害 (ASD) 死した織り女、間違った医療といういじめに苦しむ因幡の白兔等、PTSD研究のアーカイブスである。そこに流れる象徴性は、神話から現実の天皇家につながり、『借りぐらしのアリエッティ』にも、スサノオモチーフとアマテラスモチーフが出てくる。耳をすませば、DV被害母子との面接過程からも、苦悩のなかに古事記の元型が聴こえてくるような気がする。

2. 事例の概要

父親 (50) はDV加害者であるが、統合失調症みたいな世に住む未治療PTSDである。母親 (36) は脅されて結婚するが、やはり耐え難く、クライアント (以下CIと表記) のためにもよくないと考え、離婚したが (最高裁で3ヶ月前決定)、未だに逃亡生活中である。CIは4歳3ヶ月の男児で、1歳9ヶ月までのDV被害と不安定な生活のため怖がり不安が強かった。

3. 面接経過

#1 箱庭①

母子一緒に入室、CIは自発的に箱庭を始め、母親はDVの内容等説明される。父親は統合失調症的な人で母子とも死の恐怖を味わっているのがわかり、混乱ぶりと表現したいエネルギーの高さは当然のように感じられた。それでも母親は、ここではCIが安定しているのを不思議に感じ、遊びに関心を持ったようであった。CIは小さな山を大きくし、道路を作りたいのでパワーショベルが欲しいと言う。ダイナミックだが、砂をこぼすのを気にするところもあった。小さな棚にも、怖いものがありすぎるので、選んで (ゴリラや鏡や新撰組) 箱にしまう作業をする。

#2 箱庭② 2日後

心細そうに待っていて、「連れて行かれる？」と聞かかと思えば、軽業師のように駆ける。箱庭を前にする

も、パワーショベルがないと泣き、怒り、手を口に押し込み、「足取れる」と混乱。母親がいろいろ説明していると、母親に近づきジュースを飲み、病院につまづき、#1の怖いものに入った箱を確認しながら、さらに付け足す。「♪灯をつけましょ」と歌いながら絵を描こうとするが、また泣き出す。なき疲れてふと目に入った、折り紙の鳥を見て落ち着き、床で遊ぶうち、黄色いお雛さまが外に飛び出し、治療者 (以下Thと略記) に薄い緑色のビーズを1つ渡した後、箱庭を再開する。母親は実家の仕事のことやCIが自然のなかで育ったことを話す。CIは父親のミニチュアを手にとるが、やめる。

#3 箱庭③ 同日午後

遊んだ形跡を見て「誰がした？」と何度も確認。Thにトーマスのシールを張り直させ、床で遊び始めると眠くなり、「なんでトーマス顔あるの？」母は「緊張すると電車になる」と解説。『♪干支のうた』を歌い「ウルトラマンの家に行きたくなった」「怖い嫌」「なんでオオカミさん、みんな食べようとしたの?」「なんでここで (は) 夢見ないの?」立て続けに不安を訴えるので1つ1つ話し合う。机の上で食事をつくりながら、前回手にとった父親のミニチュアを参加させると、おぼけが出てきた。「♪灯をつけましょ雪洞に」と歌いながら、箱庭に父親のミニチュアを移動させる。母親はビーズの作品を持参。「熱を加えすぎた」と言われる。

#4 箱庭④ 一週間後

パワーショベルを忘れて来たのもあって、机の上で遊びながらおぼけの話をしたあと、箱庭に「きれいにしたい」と水色の道路を作り、おうちを作るため夢中で工事しはじめると、神経質さが消える。「♪歩こう!」と歌うと大小の家が登場。続いて『♪森の音楽隊』を歌う。母は箱庭作品が家業と重なっているのに興味を持っているようだった。

#5 箱庭⑤ 同日午後

雪を降らせ、『♪ジングルベル』を歌う。「足痛い」と言い、おぼけの不安を語り、おぼあちゃんの夢をみるにはどうしたらよいか聞く。砂に両手をつっ込んで甘えたように戯れているうち、目がとろりとして母親に「抱っこ」と言う。母親は子どもが怖いと言った新撰組は自分も苦手だと言う。CIは重機の運転手になりた

いらしい。お内裏さまとお雛さまは誰かと聞く。

#6 箱庭⑥ 5日後

最後を意識して戸惑っていたが、不安との付き合い方をCIなりにつかんだ様子。母はDVについて説明、CIは「お魚はなんで目にゴミ入らないの?」と語りながら、水の表現をし、『♪おぼけなんかいないさ』を歌い、狼を抱っこしてもらおうと言う。母親も箱庭に参加、最後に水が流れ出す。いつのまにかCIはのんびりした顔つきになっていて、母親はDV問題は理不尽そのもののままであるが、そこに納得できる答えをつかんだ様子である。アイロンビーズの作品を持参されたので、<(退所しても) またできますね>と言うと、「これ (箱庭) できるところ、少ないですね」等、いつのまにか落ち着いてあれこれ考察されていた。

4. 考察

1. こころのケアというPTSD予防

宮崎駿は、現代を不安と神経症の時代ととらえて、子どもたちにエールを送っているが、確かにそういう問題を抱える子どもが多いように思う。最初母子は共に不安定であった。しかし、母親はアイスピックで脅されて結婚し、やっと離婚したものの不自由な逃亡生活の果てに入所してきており、CIも海に投げ込まれたり、「おちんちんを取ってしまうぞ」と脅される等、死ぬような思いをしてきたのだから、父母未生以前の面目に直面したスサノヲのようにPTSD予防のため悲哀反応として泣いたり、表現したりする必要があったのだろう。表現欲求の高さもこころの傷の深さからきているように思う。そのなかで、ユングのいう哲学的忍耐力が身につく、納得できる答えをつかむことができたのではない。キューブラー・ロスも苦痛から学んだ時、苦悩が消えると言っている。

2. PTSD物語としての古事記

イザナミ (波) とイザナキ (風) は陰陽の象徴である。父親が喪の作業を頓挫させたままだから、トラウマに曝されたスサノヲは不適應に陥り、日本初のDV事件を起こさせられた。しかし、絶望の淵のなかで百尺竿頭から一歩進めて、集合的無意識の問題に対峙し、あの世 (黄泉の国 土気) と行き来しながら人間を元気にする秘訣を明示してくれた英雄であり、キリストである。古事記はPTSD治療のバイブルなのである。そこには神話としての象徴があるから、天皇家の系譜として現実に架橋されつつ、あらゆる物語作品に伝承されている。『借りぐらしのアリエッティ』には、アマテラスとスサノヲのモチーフがそのまま出てくるし、CIもお雛さま (象徴) に身をおいて自分の立場を固める作業をした。

端的に言えば、【一太極二陰陽】だが、ハーマン理論のPTSD治療における服喪追悼とエンパワーメントの関係につながるものではないか。箱庭と机の間で父親にまつわる記憶をCIなりに扱いながら、小さな山を大きな山にし、重機で道路を造り、自分の足で歩こうとした。母親は、箱庭表現に同席しながら、CIは自然児で、自分は日常の行事 (陰陽五行説の五行の事) を大事にしていたことを思い出す。それが今現在を勇気づけ、これからの生活を支えてくれる大事なものだということを再確認されたように見えた。

3. 物語られる架空

『源氏物語』によれば、物語とは、こころに留め置くことができずに書いた架空 (現実と非現実に架かる) の話であるが、DV被害者も表現に積極的である。そして、それは誰にでもある美点と欠点の五蘊盛苦であり、中国風であり中国風でないお経 (縦糸・ニーチェの綱) の方便みたいなものであるというのだから、【一太極二陰陽】の原則が流れているまほろばであり、ありもしない絵空事の異界などではない。そこそが現実であり、箱庭で展開する日本的霊性であるのである。CIは不安と夢を中心に、悲哀感情や歌でチューニングしながら、その世界を物語り、エンパワーメントされた。箱庭表現の意味はよくわからないが、CIの歌はスサノヲ (鼻は太極) 的な息吹であり、ハーマン理論に反して、言語化されているようにも思う。

4. 華嚴の海印三昧

混乱して泣いていたが、ふと目に入った鳥でこころのチャンネルが変化する。玄関で似たようなものを見ていたからである。鳥を見て (春の象徴)、『家政婦のミタ』の三田灯ではないが、陰陽五行説の【一太極二陰陽】 (二元論ではない3) と華嚴の火のイメージを高める呪術のように「♪灯をつけましょ雪洞に」と歌い、好きな女の子と自分をお内裏さまとお雛さまにイメージすると、水が流れ出した。こころに春が来る象徴的なお水取りの行事そのものである。

5. おわりに

うつ病や統合失調症、発達障害が流行しているが、それらは見かけ上のことであり、ほとんどはPTSDであるのがDV問題に関わっているとよくわかる。

DSM 5でも統合失調症の鑑別診断からシュナイダーの第一級症状がカットされ、PTSDとの区別が曖昧になる予定である。科学的根拠は永遠の仮説であるが、臨床心理学には変容の象徴がある。秘訣は古事記にあるのだから、もっと大事にすべきだろう。